



都立南大沢学園通信

～情熱・誠実・実践～

東京都立南大沢学園
校長 井上 美保
令和7年12月1日発行
12月号

仲間と挑む 部活動から学ぶ

校長 井上 美保

部活動が盛んな本校では、各大会で生徒たちが素晴らしい成績を残してくれています。その成果の報告や大会でのエピソードを聞くたびに、生徒の皆さんを大変誇らしく思います。皆さん、日々の練習を積み重ね、仲間と協力しながら目標に向かって突き進む姿は、まさに本校の校訓である「情熱・誠実・実践」を体現しているかのようです。

さて、先日、元ロッテ監督で元メジャーリーガーの井口資仁氏が来校し、野球部員に直接、約1時間、キャッチボールやノックなどの技術指導を行ってくれました。相手に向かって正確にボールを投げる方法やバットを振るタイミングなど、直接、身振り手振りを交えながら、丁寧に教えてくださいました。

野球は団体競技です。一人では勝てません。ピッチャーが投げるだけでは点は取れないし、バッターが打っても仲間が走らなければ得点にはなりません。守備においては、声を掛け合い、カバーに入り、相手の動きをよく見てエラーを防ぎます。大切なのは、技術だけでなく、仲間と協力し助け合う気持ちです。コミュニケーションも大事です。

野球部員たちは、井口氏からの指導を通して、このことこそが、チームを勝利へと導くのだということを学びました。

本校には運動部や文化部など、13の部活動があります。生徒たちは、仲間に対する思いやりや指導者に対する感謝の気持ちをもって、日々練習に参加しています。

部活動は、勝利することだけが目的ではありません。仲間と協力することで「協調性」が育ち、繰り返しの練習や困難を乗り越えて「忍耐力」が育ちます。さらに、コンクールや試合に仲間とともに臨むことで「挑戦する勇気」も生まれます。

これらの力は、学校生活だけでなく、社会人となるためにも培うべき大切な力です。学校生活における部活動は、未来を生きるための基盤となる力を育てる大切な学びの場です。

※記事はこちら→



[井口資仁氏が東京都立南大沢学園を訪問 野球部員に身ぶり手ぶりで濃密指導「目先の1勝に向けて頑張って」 - サンスポ](#)

テーマ【学ぶ】【暮らす】

I 3部活動の活躍と成果

主幹教諭 小林 憲生

本校は、就業技術科5校の中で最多のI 3部活動で活動しています。約8割の生徒が各部活動に参加しており、今年度も運動系・文化系に関わらず、めざましい成果と充実した活動を行っています。部活動を通じて、生徒の心身の成長と学校の活力につながっています。

令和7年度の成績と活動内容

■ 運動系 *障スポ(東京都障害者スポーツ大会)、特体連(特別支援学校体育連盟)

- ・サッカー部／特体連 (A チーム優勝)、もうひとつの選手権 (東京予選優勝)
- ・卓球部／障スポ (シングルス2名優勝) 卓球交流会 (リーグ優勝2名)
- ・ダンス部／学園祭ステージ発表 (12月)、南大沢音楽祭ステージ発表 (2月)
- ・バスケットボール部／障スポ (B チーム優勝、A チーム準優勝)、SAKURA CUP 優勝
- ・バドミントン部／松が谷高校と合同練習会
- ・バレー部／障スポ初優勝、特体連 (A・B チーム優勝)
- ・陸上部／障スポ (リレー優勝)、特体連 (個人種目で大会新記録達成)
- ・軟式野球部(高野連加盟)／特体連ソフトボール大会優勝



『バレー部 特体連 A チーム初優勝(6月)』

■ 文化系

- ・音楽部(合唱、和太鼓)／学園祭ステージ発表 (12月)、南大沢音楽祭ステージ発表 (2月)
- ・軽音楽部／学園祭ステージ発表 (12月)
- ・鉄道研究部／鉄道博物館見学 (9月)
- ・文化部／昭和記念公園で撮影会 (10月)、総合文化祭への出品 (1月)
- ・美術部／各種コンクールへポスター出展

特別支援学校における部活動は、在学中における校内外の交流にとどまらず、卒業後の余暇活動や社会参加を豊かにする大切な経験です。これからも本校では、部活動を通じて、一人ひとりの学校生活を充実させていきます。

*各部活動の大会等の報告は、ホームページでもご覧いただけます。▶

